

大塚奈緒子さんインタビュー

1. どのような活動をされていますか？経歴を教えてください。  
 大学在学中は鉄を素材とした音のでる立体作品を制作していました、大きな物を造るのは大学在学中でないとできないと思っていたので、在学中もTシャツ展に参加したりで絵を描く機会はあったのですが卒業してから絵に集中し、作品を発表する様になりました。

(\* 主な展示を一応載せてみました)

2001.6 Tシャツ展参加	Moguriroom
2001.6 ハッピーウマニア(グループ展)	ブルバッキング
2001.8 鉄フェチ	Moguriroom
2002.3 Hand on(グループ展)	Moguriroom
2002.6 Tシャツ展参加	Moguriroom
2002.8 aminism(二人展)	47(カフェ)
2004.3 ad libitum	MAISON D'ART
2005.1 images de la paix参加	CAFE&BOOKS issue(東京 原宿)
2005.4 Naturphanomen	MAISON D'ART

2. 拠点にしているギャラリーなどはありますか？おススメの美術館やギャラリーなどはありますか？おススメの理由は？  
 ここ数年は本町、「ギャラリーMAISON D'ART」で個展をしたり企画物に参加しています。オーナーがグローバルに活動している所や、ギャラリーの周りの環境が気に入っています。ちょうど、ウツボ公園前でも気持ちいいところ。カフェなども近くにあり、外人さんもウロウロして日本から少し離れた気分を味わいたいときは、ぜひ。もう一つ、堀江の「Moguri room」。ここは学生の頃からの付き合いで、プライベートでもオーナーさんと仲良くさせてもらっています。裏路地に入って、さらに曲がって「ここがいいの？」という所があるのでモグリルームだ。そうですよ。隠れ家的でオーナーもかなり気さくなので、いろんな人が集まります。楽しいですよ。7月末には、社会人になってはじめてMoguri roomにカムバックさせてもらうので遊びに来て下さい。

3. 絵を始めたのはいつごろで、どのようなきっかけですか？  
 小さい頃、気が付いたら描いてましたから「きっかけ」はわかりません。毎日広告の裏にすごい速さで描いてました。動物とかケーキとか毎日同じ様なのを繰り返し描いてみたいのです。

4. オリジナルパンツの販売を行っているそうですが、きっかけなどあるのでしょうか？  
 企画もので「女の子の造ったブリーフを展示する」というものがありまして、それに参加したのがきっかけです。Tシャツで誰でもやりそうなことだし、フリプリレースの付いた、可愛いパンツはあっても、カジュアルでオシャレな感じのパンツでないでしょう？自分がそういうの欲しかったんですけれど…。男女問わず、結構まじめそうな方でもブリーフ買ってくれたりして以外と人気です。個人的に一番やって欲しいのが、彼女、彼女とオソロパンツです。見えなから二人だけの秘密っぽいオソロがおしゃれだと思えます。

5. 好きな画家などはいらっしゃいますか？どんなところが好きですか？  
 うーん、特にはいません。いいなあと思っても、名前を覚えたりできないので流されてます。

6. 今回の展示、ぜひ見てほしいポイントなどあれば教えてください。  
 「昼間からビールを飲んで川原でバーベキューみたいな、明るい光の中のパーティーな空気」を感じてもらえればと思います。

7. 今後の活動の予定を教えてください。  
 前文と重複しますが、七月末にMoguri roomにて初めて！パンツオンリーでの展示販売を予定しています。

ぜひ、この機会にお見逃しなく。ここでしか買えないので、プレゼントなどにもいいみたいですよ。今回の様に「音楽とのコラボレーション」、〇〇とのコラボレーションをもっと増やしていきたいと考えていますので、お声をかけて頂ければ嬉しいです。

極私的ハウス咄 — ダンスミュージックへの誘い

第二回「MAW と Barbara Tuoker の巻」 Itaru Wakui

今回はMasters At Workについて書いてみようと思います。まずは一体何者かということですが、Little'louie'Vega & Kenny'dope'Gonzalesの二人からなるプロデュースチームとひとまはらずはいておきましょう。HP (<http://www.mawrecords.com/>) に載せられたバイオグラフィによると、Little'louie'Vegaは1965年生れ、Kenny'dope'Gonzalesは1970年生れだそうです。思えばぼくがハウスを聴き出した頃といえばMAWが自身のレーベルをスタートさせた時期で、ファーストリリースのmoonshine/hillbilly songが1995年です。  
 今でこそいろんな人が自らのレーベルを設立し自身の曲や自分の気に入った曲をリリースするなんてのもありふれた光景ですが、当時はDJ/Remixerが自分のレーベルをもつというのも珍しいことだったように思います。というか、ぼく自身が「そういうのもありなんか」という認識を抱いたのがこのMAWレーベルだったということです。  
 当時のMAWといえば、Indiaをヴォーカルに迎えてのLove & Happiness('94)が大ヒットしたり、変名Nu Yorican Soul名義でのNervousTrak('93)ではブレイクビーツを巧みに取込んだ、現在まで聞き継がれるクラシックスともよべるナイス・トラックをリリースしておりました。  
 そんななかでもこの時期のMAW関連のなかで一番心に残るフロアヒットといえばBarbara Tuckerが唄うBeautifulPeople('94)とStay Together('95)が思い浮かびます。この2曲や上述2曲でMAWはすっかりとスターへの階段を駆け上がっていきました。  
 バーバラの歌は彼女がとルイとともに主宰していたUndergroundNetworkというパーティーが絶頂だった時期のものかと思いますが、2曲とも力強いヴォーカルが冴える魅惑のパーティーアンセムとも呼ぶような素晴らしい歌で、ハウスの良さがぎゅっと凝縮された曲なんじゃないかと個人的には感じます。  
 てなこと、そのうちコレクティブでもかけようと思いますんで、期待しつつ足を運んでもらえれば幸いです。

next collectitve

次回collectiveは  
 2005年10月30日(日)を予定しています。  
 また夏にお会いしましょう！

[http://www.geocities.jp/collective\\_web/index.html](http://www.geocities.jp/collective_web/index.html)

collective全体について、またこのpress collectiveについてのご意見・ご感想が僕達の最大の活力源です！皆でもっと楽しいパーティを作りませんか？  
 ぜひ上記WEBサイトから皆さんの声を聞かせてください！



pick up of the issue

Hiroの『ナチュラルライフの薦め』  
 大塚奈緒子さんインタビュー

## 『ナチュラルライフの薦め』

Hiro

なかなかすっきりしない天気が続いておりますが、皆さん如何おすごでしょうか？この度、collectiveのミュージックゲストとしての出演依頼を楠田、松井両氏から頂き、良かった何か文章もという事でしたので、借越ながら筆をとらせてもらう運びとなりました。で、何を書こうかしらん、と迷ったんですけど、ここは一つジャマイカの食生活を中心に『ナチュラルライフの薦め』というところで話を進めさせてもらうことにします。

さて、皆さんジャマイカの食事と聞くとどんなものを想像しますか？多少ジャマイカに興味がある方なら、ジャークチキン、アキーアンドソルトフィッシュ、パティ、ライスアンドピーズなんかを思い浮かべるんじゃないかとと思います。実際ここ辺が島の代表的な料理ってのも事実なんです、先ずはこの四つを簡単に紹介します。

ジャークチキンは屋台の味として夜間街に出るとストリート上の至る所で出会うことができます。調理方法はドラム缶の中で蒸し焼きにし、焼きあがったら骨ごとぶつ切りにします。しっかり香辛料が効いているので、僕としてはそのままで充分食べれると思うんですけど、そこは、ほらジャマイカ人なんでケチャップとソース状のペッパーをドバドバかけて召し上がる方が多かったです。この料理はどこで食べてもそんなに大差なかったなーってのが正直な感想です。アキー〜に関してはアキーのシーズンになれば街のレストランなんかでメニューに挙がります(アイルランドフィッシュというジャマイカ料理のファストフード店に行けばブレックファストメニューとして年中食べれるんですけどね)これは、アキーというフルーツとソルトフィッシュと呼ばれるタラの塩漬けをシーズニングと共に炒めるといふか油で煮る料理です。完全に料理する人に依るんですけど、僕はけっこう好きな料理でした。というか、アキー自体が旨いんです、なんというかわ二っぽい感じですが。パティはジュースービーパティとステイパティという二大チェーン店を中心に島中の色んな場所で売られています。中学生や高校生が放課後にむしゃむしゃしてる姿がよく見かけられました。ライスアンドピーズはレッドピーズという小豆のよう豆とコナツツミルグで煮込んだ赤飯のようなもので、一般家庭では日曜日のディナーには欠かせない料理です、そして街のレストランのランチでは曜日に関わらず、基本的にこのライスアンドピーズがサイドディッシュになります。

短期滞在でジャマイカに行く機会がある人はダウントウンに出て色んなレストランを訪ねて行って下さい。けっこう数のレストランが街中に点在しています。また街中にはジャマイカレストランの他にチャイニーズレストランも何軒か存在するんで、こちらにもチェックしてみたいんじゃないでしょうか。日本の中華とは全く違ったジャマイカチャイニーズなんでなかなかおもしろいと思います。ちなみに自炊をしたくない中・長期滞在者はこの中華料理を上手に利用する必要性が否応無く生じてくるので、ほっといでも行くことになるでしょう。

また、ジャマイカ人は毎日毎日チキンばかり食べているというのを聞いたことがある方もいるでしょう。これは、僕も半信半疑だったんですけど、本当でしたなー。僕はジャマイカ滞在の最初の三ヶ月間はジャマイカのクリスチャンファミリー宅にホームステイして晩飯だけは頂戴してたんですよ。まー必ずしもチキンは安い食材ではないので毎日食卓に出されるというわけでもなかったんですけど、この家の人たちは夕食後小腹が空いたといっってはしょっちゅうケンタッキーでチキンを買ってはむしゃむしゃしてました。僕はこのステイ先で本当に色んな料理を食べさせてもらいました。中には鳥の足、背骨や首、牛のナニやらヤギの頭や内臓といった正直、うーん、・・・な食材もありましたが、市販のもとは一味違ったいわゆる家庭料理でモノを食する経験がもてたのは非常に良かったです。特にライスアンドピーズに関しては色んな所で食べる機会があったんですけど、この家のオカンが作ったやつが抜きん出て旨かったです。

さて、この家でのホームステイもそろそろ終わりに近づいてきたある日のこと、親父さんとおふくろさんがウェディングパーティーのため(このカップルは長年ともに生活をしてはいたんですけど、籍は入れてなかったんです)に豚とヤギを購入したんですよ、生きたままの。んで後日、親族・友人が集まっての解体作業が催されたんですけど、これはなかなか衝撃的な体験でした。屈強なブラックメンが集まって先ずはヤギさんから。突きつけられた死の恐怖におのきのき、暴れ、叫び声をあげるヤギを皆で押さえつけ、集まったメーンの中でもとりわけいかつい肉体をした漢がスプリフをしがんだままそのヤギの角を掴んで「ゴキッ」と一捻り、昇天です。それからウイメンも加わり首を切り落とし、皮を剥ぎ、内臓を取り出し・・・とあっという間にブロック状の肉塊に。朝っぱらからえらいもん見せられたなー、と思いつつ、僕は買い物にダウントウンまで出発。買い物車をちゃちゃっとすませて帰ってくるのと別のヤギの解体もコンプリートしており隣家と

の垣根であるブロック塀の上にはヤギの首が陳列されておりました。いつのまにかパーティー用におふくろさんが前日こしらえていたラムパンチ(ラムに甘ったるいフルーツパンチを混ぜたカクテル)を皆で煽りながらの作業。なんの手伝いもししていない僕も固々しく酒だけ頂戴。さてさて、今度は豚さんの解体です。豚さんも当然のことながら同じくはいていません、というかヤギとは比べ物にならない程の大暴れ。うーん、どうするんでしょうか？と眺めていると件の漢が棍棒を取り出して豚の脳天に一撃。豚さんは当然気を失います。その隙に喉笛を掻き切って豚さんも昇天。後は同様にみるみるうちに一頭目の豚の解体も完了。そこで、この漢は疲れた様子もみせず例によってスプリフを啜えたまま一言「Next!」・・・僕はこの日生まれて初めて、今まさに殺されんとしている生物の断末魔の叫びというものを、そしてその生物が人に供されるためにバラバラにされていく過程をライブで見聞きさせて頂いたわけですが、筆舌に尽くしがたい本当に貴重な経験となりました。ちなみに隣家のビッグなお姉さん曰く、「私はブッシュの出身だけだ、そこではエブリデイだったわよ」だそうです。

さてさて、最後にディープなジャマイカを見せてくれたこのステイ先を離れてゲストハウスにて一人暮らしをすることとなったんですけど、ここでの食生活のメインは自炊になりました。この頃僕は完全に食のホームシックを罹っており、ジャマイカの食材を使って如何にして日本っぽい味を作れるか、という事が僕にとって最大の課題となります。結論から言えば、当然のことながらジャマイカにあるものだけで日本の味を再現するのは不可能です。が、携帯していった醤油と向こうで知り合った日本人からもらっただし」を駆使すれば、なんとか日本っぽいものは作れました。米は普通に日本国からますしね。これである程度、食の悩みまでは解放されました。

そんなこんなで生活していたとある日、日本人の友人を介して若いラスタマと知り合いになる機会に恵まれました。彼は最近ラスタに宗旨変えしたばかりだそうで熱心に僕にラスタファリズムについて語ってくれました。彼はゲッターボーイなんですけど、車を所有しており色んな場所に僕を連れまわしてくれました。そして、一見しただけでは分かりづらくても、「ラスタ」という旗の下にいかに多くのジャマイカ人が生活しているのかという点に気付かされたんですね。僕ははもともとラスタラスタと言ってジャマイカくんだりまで出かけていたけれど、滞在初期のラスタとの出会いがよろしくなかったことも手伝ってちよつとラスタとの間に距離を置いてたんですけど、せーかくここまで来たんだからラスタの生活様式に合わせて生活してみるか、ってことにしました。

とはいえ、いきなり塩と野菜だけで食事を作れといわれてもって感じだったので、まずは肉を絶つことから始めました。これは、実際そんなに苦にはならなかったですね。というのも、少なくとも僕にとってはジャマイカの牛や豚やヤギは美味しくなかったからです(まあ、あくまでこれは私見ですけど大半のジャマイカ人もそう感じているからこそエブリデイチキンなんですよ)。同時に肉と言えばチキンという生活を続けていたので、チキンに関してはいいか減もいいよ！とまなってたん。そして何よりジャマイカ産の野菜は旨いんですねーこれが。なぜならジャマイカで作られている野菜って有機野菜なんです。そして国産故に余計な税金がかからないから味の悪い外国産の野菜より格段に安いのです。ただ、現代日本の食生活で鈍化した僕の舌には少々塩だけの味付けって寂しかったもので粉末スープの元なんかを使ったりしてました。すると、一言も僕はアイトル料理を作るからなんてことはゲストハウスの従業員達には言ってなかったんですけど、彼らがブーブー言い出したんですよ。いやージャマイカって本当に怖い所です(笑)。そんなこんなで徐々にアイトルな生活を目指し、ビアー及びラムもストップ。続いてシガーもストップ。んで、最終的に塩・野菜オンリーの食生活を始めて数日が経過すると、冗談でもなんでもなく、毒気が抜けたとでも言えбайいのか、自分の感覚が異常に鋭敏になったことに気が付いたんですけど。正直、食生活を変えたらいびや何も変わらんやろ、とか思ってたんですけど、この考えは180° 転換させられました。ここからは日本に帰ってから、改めて冷静に振り返って至った考えでもあるんですけど、この視点を通して長い間僕の疑問だった、何故ラスタ達が「愛だ愛だ」と声高に謳うのかわかって理解できたような気がするんで、そこら辺をちよつと説明させてもらってあげさせて貰います。

そもそも僕にとってラスタ達がバビロンに対して呪いの言葉を吐き掛けるのは至極当然のことだったんです。だって彼らの大半は、400年の長きに渡り資本主義システムの最底辺に組み込まれ続けてきたジャマイカという今尚貧困に喘ぐカリブの小さな島国の中でもとりわけ苦しい生活を強いられているゲッター居住者なわけですから。そりゃ、Fuck off Babylon!! となるよねーって。でも彼らは同時にOne Loveだよ、Peaceだよ、Positive Vibesを忘れちゃいかんよとも訴えてきたわけですよ。これを、単なる逃避じゃないの？っていう風に思う方もいるかもしれませんが。多くの日本人にとってラスタファリズムってのはアフリカ帰帰思想と結びついたカルト宗教でその信者たちは大麻常習者であるという認識があるでしょうね。現代の日本で生活する日本人にとっては、この思考回路がノーマルです。僕もこの考えを否定する気は別に無いですが、というかそんな資格は今の僕には無いです。だって僕もシステム内で生活している日本人の一人ですから。ただ、僕がジャマイカでラスタのライフスタイルを通してまた彼らとのコミュニケーションを通して見た世界をベースに話をさせて頂く

と、ちよつと違う見方もできるんじゃないかなーってことです。

上でちよつと書きましたけど、ジャマイカって未だにホント、サードワールド真っ只中なんですよ。これは取りも直さずシステムの恩恵をほとんど享受してないってことですよね。さらにジャマイカ最高の外貨獲得手段であるツーリズムの最も美味しい果肉を食っているのは海外に資本を持つ壮麗なホテルであり、この国へのツアーを企画する米国を中心とした旅行会社なわけですよ。んで土産物店を取り仕切っているのがインド人居住者ですから。その次に儲かりそうなスーパーマーケットは中国人コミュニティーが完全に抑えてますし。もういっつもさっちゃんわけですよ。こりゃタクシー運転手でもやるしかないぜMy youth! いや俺は観光客相手に荒稼ぎするぜ! いやいや俺はコークを捌くぜ! っとなるわけですよ(もちろん真面目に働いているジャマイカンもおられますよ、念のため)。まあ平たく言えば無法地帯が形成されるわけです。「無法地帯」うーん、よろしくない響きですね、いや実際よろしくない事はいっぱいあります。モベイでさえゲッターではガンショットは日常でしたし。しかし、です。システムの恩恵をほとんど享受していないということは裏を返せばシステムから限りなく自由であるということも意味するわけですね。日本にもいますよね、システムの外で暮らす人々、そうヤクザさんですね。ジャマイカやUSで言えばギャングですね。実はここが難しい部分だと思うんですけど、ジャマイカやUSで言えばギャングになることは実に密接な関係があると思うんですよ。全ての人間がそんなに強くは無いですから。実際、ラスタと日本人も紙一重な所はありますし。でも人間ってシステムの外にいてもピースフルに暮らせる可能性も持ってるんですよ、多分。どうするのかわ？ その一つの答えがNatural Lifeなわけですよ。つまり、システムの外に立ち、時間による拘束から解放されたい。そこで法の裏側で生きる道を選ぶ誘惑に屈せず、ナチュラルな食物だけを摂取し、そしてその研ぎ澄まされた五感を持って自然を全身で感じ、自然と共に生きる。そうすれば、物質的な享楽に浸る人々に対する怒りは消えるわけですね。つまり社会的には間違いなく脱落者であるラスタたちではありますが本当の意味で「生きる」という観点からすれば彼らは既存の社会に帰属する人々よりもずっと高次にいるんじゃないかと。だからこそ、彼らは彼らを虐げているはずの世界に対しても愛を訴えることができるんじゃないかってことです。

・・・とまあ何やら高尚な物言いになってしまいましたが、詰まるところは自然を感じてみませんか？ っただけの語です。まあとりあえず難しいことは抜きにして肉抜いてみませんか？ そこに何を見るか、何を感じるかは各人に依るところだと思います。そこで何かを見出せたなら、その状態でジャマイカに行ってみてはいかががでしょうか。きっとラスタたちは暖かく迎入れてくれると思いますよ。また別にジャマイカはラスタの国ではないの、普通に旅行しても充分楽しめますよ。なんとと言ってもレゲエの国ですからね。オールディーズファンも今ならまだ間に合いますよ。キングストンでは年に数回素晴らしいオールディーズショーが催されておりますので。まあでもこれは観れなくなるのは時間の問題なので、興味のある方は今のうちにどうぞ。また、キングストンには僕は住まなかったんで何とも言えませんが、少なくともモベイは街自体が、ブラックがブラックの論理で作り上げた一つの最高傑作なので、黒い感受性がある人にとっては最高に楽しいんじゃないかと思います。そして何より理屈抜きに美しい自然がこの国にはあるんでね。ただどんなな楽しみ方をするにしても自分が金を持った日本人であるということをお忘れしないで下さい。

そうそう、最後に一つだけ、完全にアイトルな生活に入っって自然の中に生きること至上の喜びを見出した結果、帰って来れなくなっても僕は責任取らないので悪しからず。